

■地域活性化起業人制度の活用

地域活性化起業人制度は、都市圏の人材の専門性を活用して地域課題の解決に結びつける制度であり、人口減少や人材不足、デジタル化への対応など、自治体だけでは解決することが困難な課題に対して、民間ならではの発想や蓄積されたノウハウを取り入れ、より効果的なまちづくりを進めていくものです。

本町では、今年度より、天塩町地域活性化起業人としてデータ活用戦略やデジタル化、地方自治体での業務効率化などの分野に豊富な経験を持つ「業務効率化DX推進アドバイザー」をお迎えしております。この取組みは「役場の組織力」と「住民サービス」の向上を目指すとともに、新たな人材を呼込むことで、将来にわたって持続可能なまちづくりにつなげていくことが目的です。

先月は、若手職員を中心としたワークショップを開催するなど、業務最適化を進めていくにあたり、業務課題の洗い出しを行いました。まずは、役場の業務改革に向けて一歩一歩継続的な取組みを進めてまいります。

本町では初めての制度活用となりますが、住民サービス及び満足度の向上と持続可能なまちづくりの実現に向けて、職員とともに新たな挑戦を進めてまいりたいと考えております。

■シン・ライダーハウスの開設

年度当初より鏡沼海浜公園にて整備を進めておりました「シン・ライダーハウス」が5月にオープンとなりました。本施設の整備にあたり、地域貢献による多大なるご協力を賜りましたこと、関係者の皆様におかれましては、

改めまして心より感謝申し上げます。

この施設は、旧鏡沼海浜公園サービスマンセンターを有効活用し、ライダーハウスとして転換した観光施設であり、近年増加するツーリングの受入環境の充実を図ることを目的としております。内装は、バイクや自転車を屋内に保管でき、天候を気にすることなく個室で安心して休息をとれるものとなっております。

本町は、オロロンライン沿線で多くのライダーが訪れる地域でありますことから、シン・ライダーハウスの整備によって、観光滞在時間の増加や交流人口の拡大、さらには地域経済の活性化と観光誘客の創出につながるものと大いに期待しております。

オープン後1ヵ月となる5月末時点では、42人の観光客にご利用をいただいております。順調な滑り出しとなっております。今後におきましては、より良い観光施設となるよう、利用者目線に立った施設運営に努めるとともに、観光振興及び交流人口拡大に向けた取組みを一層進めてまいります。

■幌延海岸浜里地区の海岸侵食の対策状況

令和4年4月に確認されました「天塩川河口右岸」の海岸侵食におきましては、北海道開発局、北海道宗谷総合振興局及び関係機関との連携のもと、大型土嚢の設置による河川管理用通路の防護及び砂嘴の決壊防止対策と、仮設消波堤の設置による海岸侵食対策が実施されています。

本町におきましても、海岸区域であります幌延町との協議を行い、海岸侵食対策につきまして、国や北海道への継続した要望活動を実施してまいります。

しかし、昨年7月には、対策箇所北側にて海岸侵食の拡大が確認されるなど、注視が必要な状況が続いております。現在は、関係機関の皆様のご尽力によって、侵食箇所の復旧と対策が施されており、監視カメラによるモニタリングが行われております。海岸侵食により砂嘴が決壊した場合、河川管理用通路の変状や汽水域の変容による漁場や漁業資源、特にシジミ資源への悪影響が大いに懸念されることです。

また、国土保全の観点からも抜本的な侵食対策が必要であると認識しておりますことから、本町と幌延町、北のちい漁業協同組合の三者が連携した北海道への要望活動を新たに開始したところです。従前より要望しております継続した海岸侵食対策と関係機関との連携強化に加え、北のちい漁業協同組合とも連携しながら、抜本的な侵食対策について、北海道へ強く働きかけを行うていく所存でございます。

■一般国道40号（北海道縦貫自動車道）中川天塩道路の事業化

一般国道40号（北海道縦貫自動車道）中川天塩道路につきましては、令和4年度より本区間の計画段階評価が進められてきましたが、国土交通省社会資本整備審議会道路分科会の審議を経て、令和8年度新規事業化となりました。各種期成会や関係者が一丸となって事業化に向けた取り組みを進めてきましたこと、地域皆様におきましても、アンケート調査や地域ヒアリングに多大なるご協力を賜りましたこと、これまでのお力添えに心より感謝申し上げます。

本道路は、昨年度開通しました音威子府村と中川町を結ぶ「音中道路」と一体となって、道北地域の高規格道路ネットワークを繋ぐ延長20.7キロメートルの重要な区間であり、当該区間の整備により「高次医療施設への到達性向上による地域医療サービスレベルの向上を支援」「速達性・安全性の高い物流ネットワークを構築し、物流の効率化や地域の産業振興を支援」「災害リスクの回避により災害発生時の道路機能を確保」といった効果が期待されます。インターチェンジの計画位置としましては、仮称ではございますが、下国根府と雄信内の2か所が示されております。インターチェンジへのアクセス確保につきましては関係機関と協議・要望を進めてまいります。

今後におきましては、一般国道40号（北海道縦貫自動車道）中川天塩道路の整備促進に向けた要望活動に注力してまいりますので、皆様の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

■地方創生伴走支援の活用状況

本町におきましては、総務省、農林水産省及び財務省に所属する3名の地方創生支援官から地方創生施策の立案に対する支援を受けてきたところです。令和7年度は「酪農振興」に焦点を当て、持続可能な酪農を目指す事業「天塩版新規就農工コシステム構築プロジェクト」実施計画書を国へ提出したところ、令和8年度地域未来交付金事業として事業採択に繋げることができました。

原則1年間の伴走支援制度ではございましたが、本制度の継続について希望したところ、令和8年度も引き続き、伴走支援を受けられる運びとなりました。本年におきましては、ふるさと納税制度を含む地場産業振

興など、新たな分野に対する支援をいただく予定です。地方創生支援官の知見を最大限活用しながら、地域課題の解決と地方創生の推進に全力で取り組んでまいります。

■地域おこし協力隊の着任状況

本町では、地域課題の解決や地域力の創造を目的として、従前より地域おこし協力隊制度を積極的に活用しております。

令和7年度におきましては、文化・歴史の分野で2名の地域おこし協力隊が着任し、天塩川歴史資料館の活性化や利活用促進、地域への生涯学習支援など、学芸員的活動に尽力しております。

令和8年度におきましては、地域の情報発信や映像制作の分野で1名、酪農振興や新規就農支援の分野で1名、フリーミッションではございますが、水産関係の分野で1名の計3名の地域おこし協力隊が着任しており、それぞれの経験や専門スキルを活かした活動を開始しております。

さらに、現在2名の地域おこし協力隊内定者がおり、本年夏ごろを目途に着任する準備を進めているところでございます。

本町の地域おこし協力隊は、着任済5名と着任予定2名の計7名の体制となる見込みです。隊員一人ひとりの活動を支援しながら、地域への溶け込みと関係人口の創出、地域の活動人口の拡大に向けた取組みを推進していくとともに、本町が抱える様々な地域課題に対応するため、引き続き、地域おこし協力隊募集活動にも積極的に取り組み、多様な人材の確保と受入体制の充実を図ってまいります。